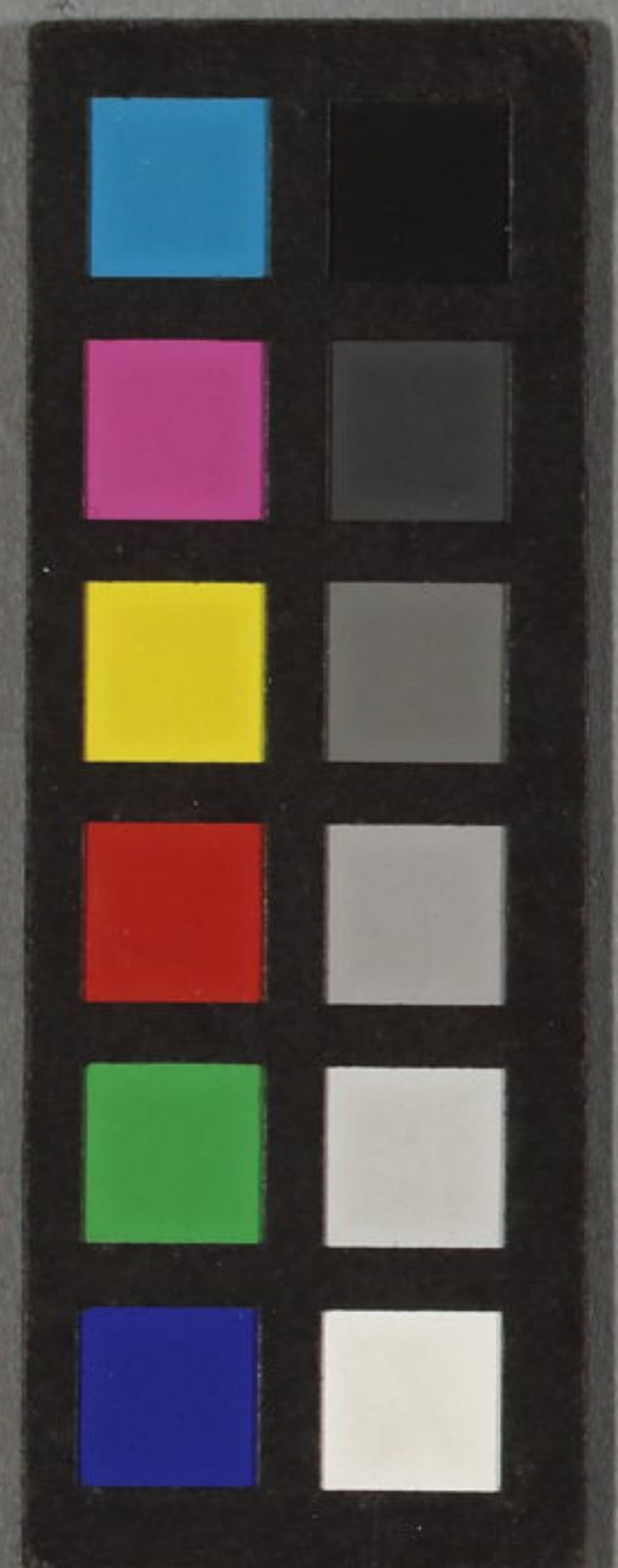




田金源氏

二六編
二七編
二八編



傳業

日
金

九五編上



山

下冊ふかひの火よりづふふ二葉野らさも 二十七編の上より下まで巻
辛の次を編むとあへて二十八編又書をよめとせしむとあへて廿九の影板

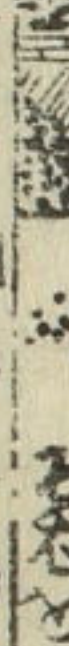


かみと神や
うさぎ

ひらりひらり
ひとあそび
かぐりてめを
みそくち



足利義尚
あひありき
忍歩行
桂川
磯菜と
見
ま
り
ま
小
か
あ
と
う
さ
ぎ

[illegible]

[illegible]

原氏七五編

[illegible]

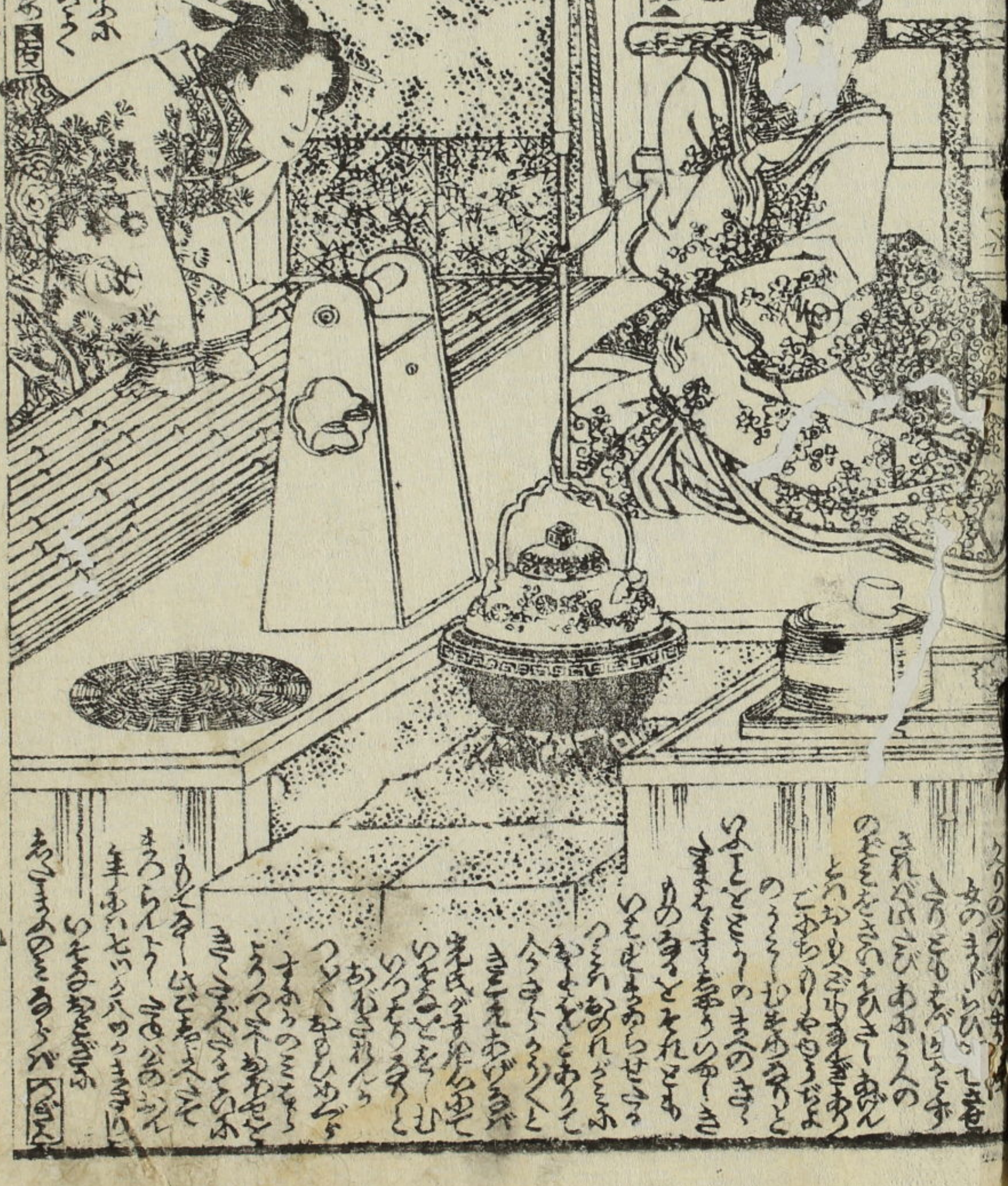
きつてさうひきつてくうーあまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう



あまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう

あまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう

あまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう



あまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう

あまをまめやう
あまをまめやう
あまをまめやう

かつのさびと
 とうとうつれ
 かりとひさ
 さとのおぢえ
 わぶもてふり
 るきゆれあぢ
 ざれどあぢむ
 ぐわめてまゆをせ
 へんえと上のまゆまじりてまじりてわさひの
 かうぬればおそをふまじりてわさひのまじり
 あれるさめゆれよりやうへにひさのやうなめふさまじり
 のあふあふといをさざれんやひとまじりて又まじり
 うせさせさまひてよりまじりてをさめをさめ
 おとろひだにせおとせればまじりてをさめをさめ
 りとまじりてまじりてのまじりてをさめをさめ
 んやまじりてのまじりてをさめをさめ
 まじりてのまじりてをさめをさめ

[illegible]

あつれようの工事をしへられ
そのおもむきとまうりや
ふくろすす まどとよます
べーとうんち あまおきそ
ひさまさげば ふれちくさる
えり門よりんとす ちかぬ
かささらをえりなれが
ありげのりのをえくら
まゝながのありあふの
あるらぬさびひるい
どうもさあ
それがかごと
とふ

[illegible]

[illegible]

地本類東錦繪問九御摺物所鶴屋喜右衛門



箱
田
自
馬

出五編下



田舎

茅

廿五編

下冊

芳

目がうもよてあぶらこき
 人せなやうにわうこき
 まかりこき　とてうこき
 きなりこき　まかりのあやに
 こき　ちあせうてうこき
 目がうもよてあぶらこき

光成もそのとりかへてふへにあらは
 ぬゆをなぐとてきりきりま
 ひきまなま ばまづくのたこを
 そりてんし年ふゆのこまかりふ
 ちまゆきてめづりきこまきつ
 されつてやちひめをまふかれ
 ちりまふまづりへるひん人を
 おきのふゆをひひるがぢひさ
 ゆめさうのまのちんかまひちよ
 なまえずよまをせじとおめ
 ちあてありそのふふふふれバ
 わあうーひきまひと
 ころまふまふとて中
 ーていふをあらう今
 ぬのまづふ
 ちまふのふと
 うらめーと
 ちがーとて
 あじもたがりバ
 あいささめあう
 人まふめてうりと
 こまふよりまふま
 べまてうるこようちあせ
 こなれーとんぎせ
 こまふせすさす今くる
 へかひめあふとくふちが
 はまふちうーこまふひ
 ああふてくるこまふちうー

[illegible]

上と云ふかきうととめうあうか
 ああせうとどうちのぞううこまなず
 又ううとてのうわわうのひききう
 をあきそおとにえぬひうとてきくあ
 おんねおせとてあきうういとてきくあ
 かんえさうてべいのまうとてあき
 おあひあせうとてきくあ
 いせうとてきくあ
 かんじとてあきとてあきとてあき

まのまひをきく
 よりもつこを
 りめあぢわう
 らふまゐり
 つなびしつらう
 はままがー
 まよをわひ
 とてとあひ
 うつくしくち
 るがめされ
 あさきのよふ
 あぐさむうれ
 とあはれんを
 おうそすき
 りとわ　さと
 まのもじをも
 廿二今
 ちかよふ
 ふき合
 工を
 文
 三
 四



あつねはあつねのあつねをすゝえり

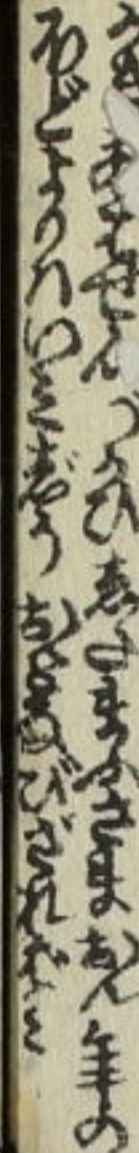
くまひる
けいふまふ六でうふ
うりふまふまふ
とまふ

[illegible]

漢書

44
 45

一



f-1087 Hing Nud - Cera
mured to C. Spina Cera

[illegible]

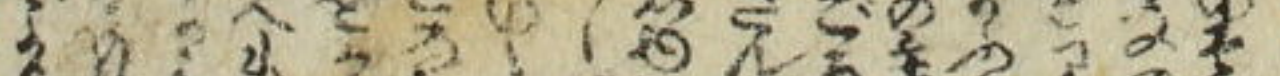
かくて夜おけそまわりさ
 のまごのこまとよまほ
 ぎもあめきを
 まわあちゝあて
 あひのすきまう
 だてまふ
 かむまきうまれ
 るうがううわてぢあひてそぞちめ
 かゝてまううまのまごちのまかうあて
 ありをねばあまのまごおまううまを
 まわらんとあまのまごあまのまご
 のまごえてとりの人あて



卷之五



をまぐゆき雲の
をどろあう
をぢりんはれ
かゝりてこれお
かうりやわひの
おもほきこり
さみのふだに
かきてまが
つひまめの
まゐとこい
しづらふ
この幸
ころ
さん
おめ
グーテ
ひる
ふとく
まへ
まへ
わめ
とんち
あでくお
ふゆふふの
ふとまうふ
まへの

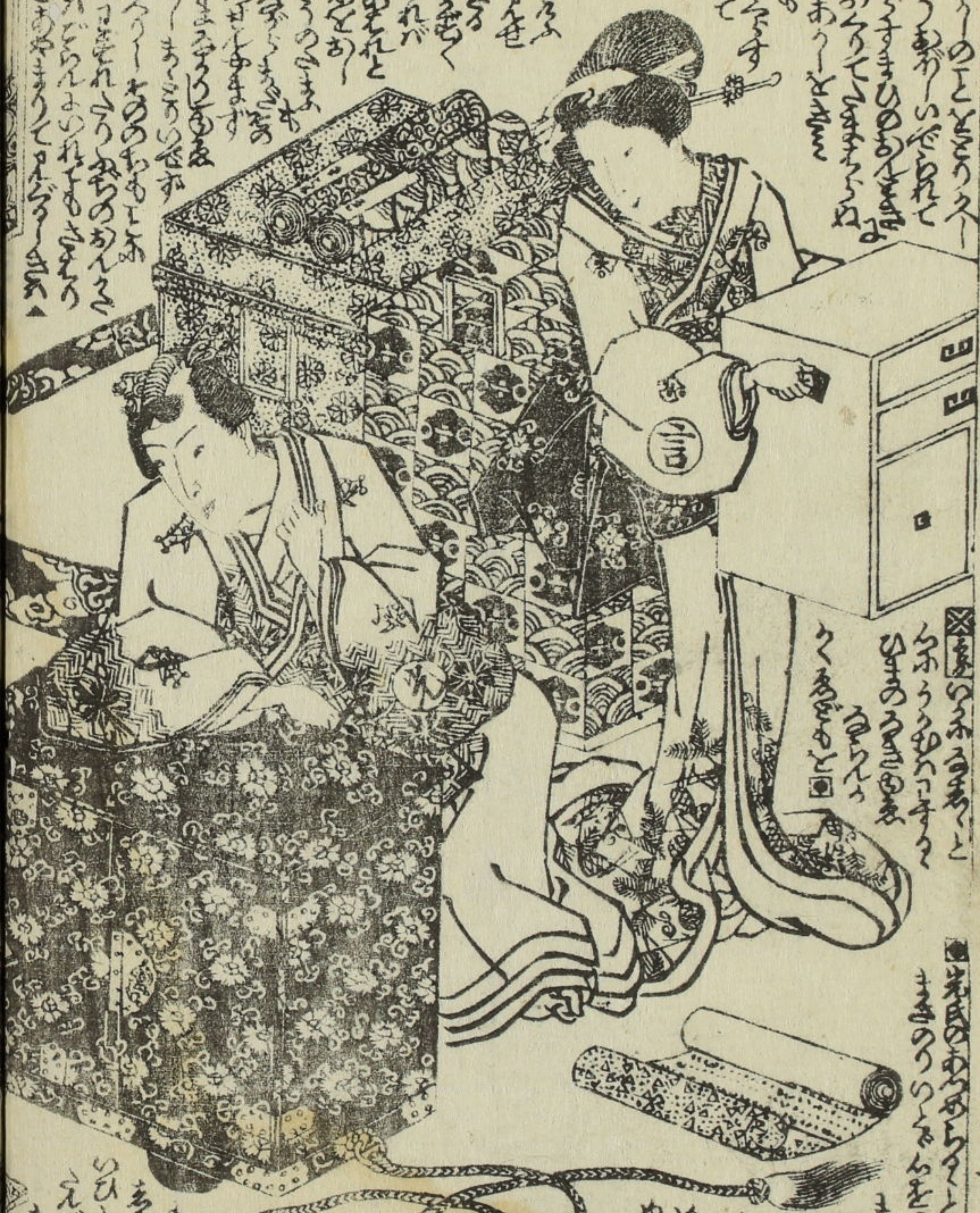


[illegible]

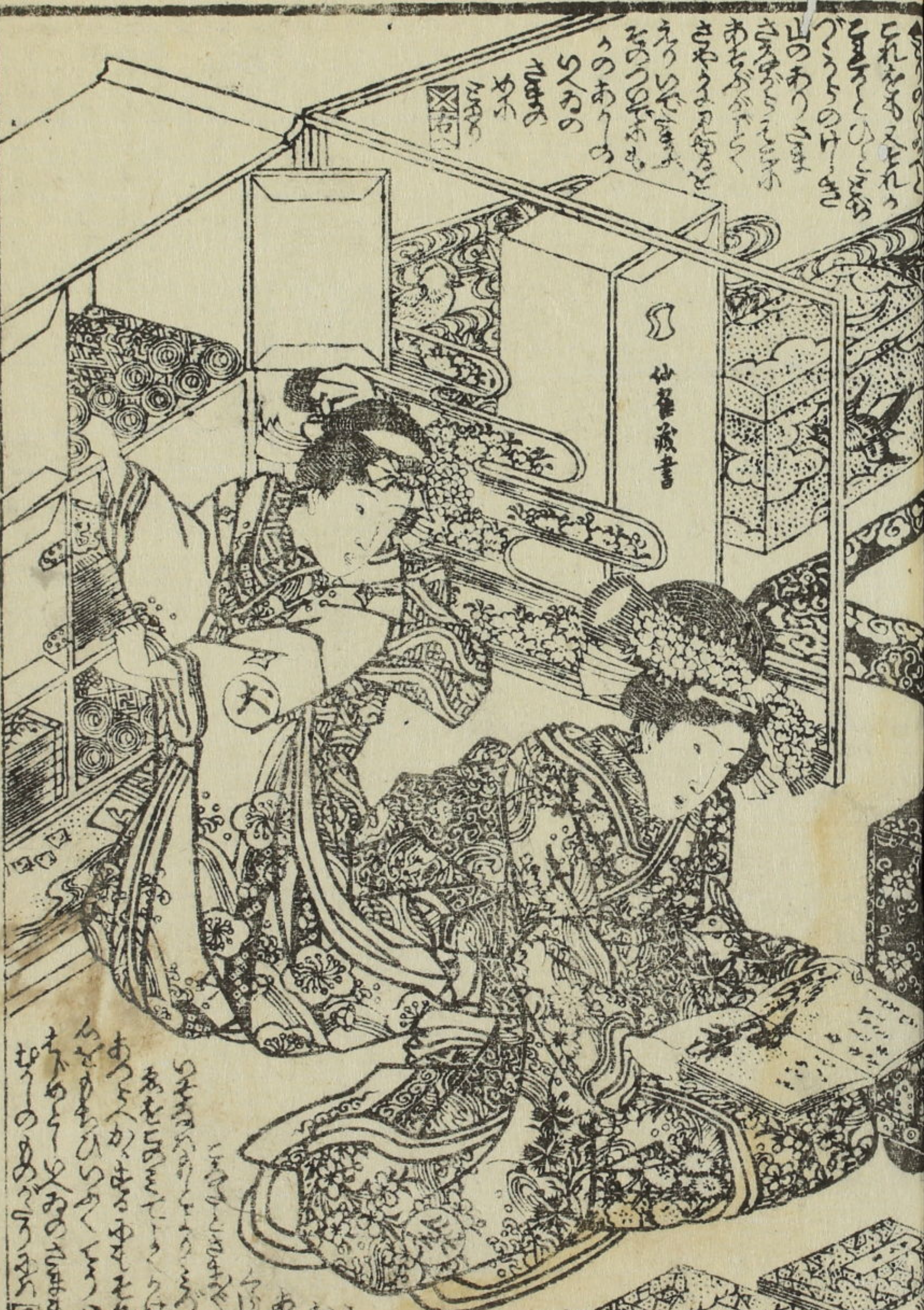
又おもはるゝ事なれども
おもふに人々を言ひきこ
せりやうきものにあらざ
いとてうきをせむといふ
えびまのふ束をうづ
かたりやうきをあらわ
ぬがなりといふなり
おもふといふなり

[illegible]

やとつ又き
なまつく一衣
まじりぬめ
ぢくさう
ゆもの
ふろしあ
いすまそ
いんぐ
やちやく
あはれを
あせふ
そふ
こゝろ
やよひの
十日の夜
そんも
いと
うけ
あそ
人の
なん
のひかふ
めのおれ
あらまどうと
いひ上ひたすそ
えでぬ



仙臺藏書

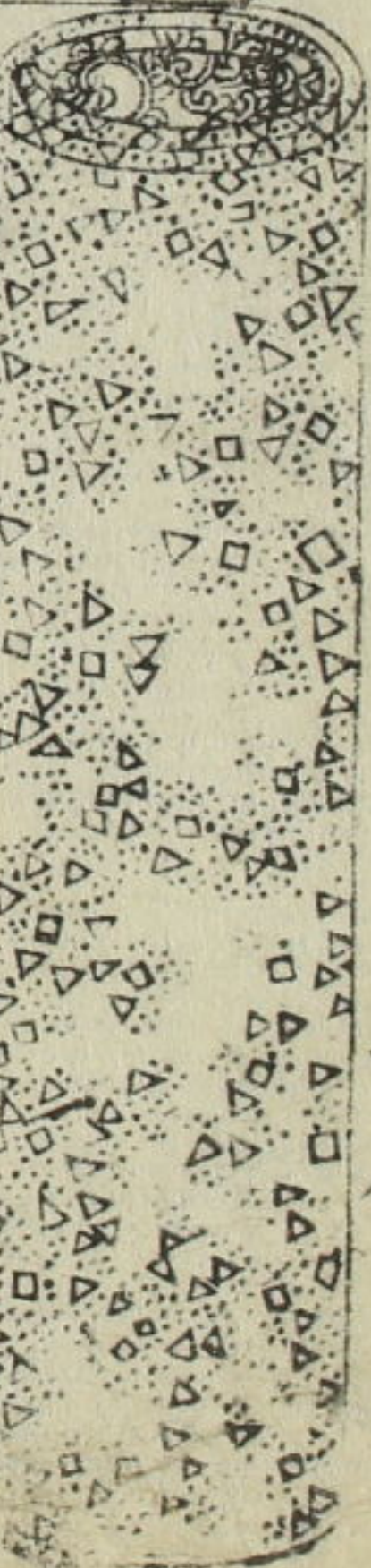
[illegible]

⑤
 あつちのうらなふと
 ⑥
 うなひまき、せが
 まづさうらの
 さあじもの
 かすろふ
 りでん
 あせせの
 まるびに
 とるさう
 わいお
 さうしきそ
 れれさけも
 ああどころ
 しあがり
 おくまき見
 ああうちやて
 ひけてよののこ
 りておぢやと
 そうよせいまゐりて
 あうとるめ
 よのまゝ右のこ
 ふれいめい
 つゆいのも
 左すぎまみ

七

とあふ
ああ
わいの
きんぎょお
二つのおれ
りのでこのの
え味ある甘や
ゆくまをよ
あゝめいよく
るをちぢめて
らうなす
むまつたさ
そなたこれど
るん元かけ
まづめがき
うーのその
ろきひもあ
それをもて
のころより
くらきあら
とので
かたまたま
あれからこそ
めのぶんげん
とであつて
下段めづく

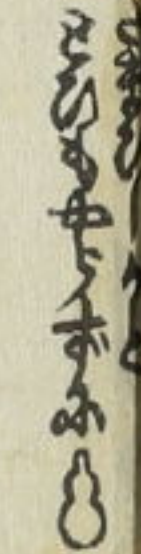
原上五編



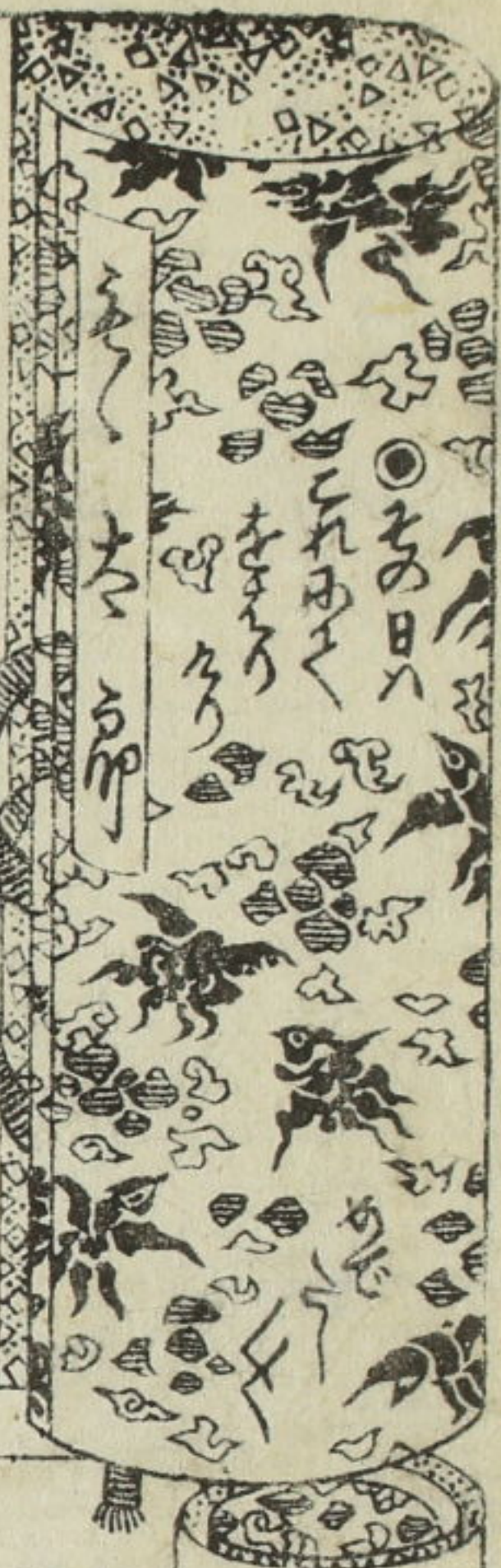
乃乃乃乃乃



ちんちんではあゝのさまと 上へ



※あちけうさねのうけけけけんあえよのつぎ
ありあまこうり　よとわひあり
年のこのすぎむえの年あけてんあききこ
ありあまこさねのあはるんひめをま　（つぎ）



柳亭種彦作



義艶仙女香
黒油義玄香

右あはれものしく精製
仕方のきまりきつた
事希なり



浄書道友

歌川國貞画

倭紫田舎源氏

柳亭種彦作
歌川國貞画

三十四編の初めをわづらひ初巻より下冊のあはれ巻とる三十五編
上冊のすゑめんの巻をわづらひ下冊のすゑめんの巻とる三十六編上巻の
下冊のあはれ巻をわづらひ二葉野の巻とる三十七編の上巻のあはれ巻
下巻のあはれ巻をわづらひ三十八編の二葉野の巻とる三十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ四十編の二葉野の巻とる四十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ四十二編の二葉野の巻とる四十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ四十四編の二葉野の巻とる四十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ四十六編の二葉野の巻とる四十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ四十八編の二葉野の巻とる四十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ五十編の二葉野の巻とる五十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ五十二編の二葉野の巻とる五十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ五十四編の二葉野の巻とる五十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ五十六編の二葉野の巻とる五十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ五十八編の二葉野の巻とる五十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ六十編の二葉野の巻とる六十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ六十二編の二葉野の巻とる六十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ六十四編の二葉野の巻とる六十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ六十六編の二葉野の巻とる六十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ六十八編の二葉野の巻とる六十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ七十編の二葉野の巻とる七十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ七十二編の二葉野の巻とる七十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ七十四編の二葉野の巻とる七十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ七十六編の二葉野の巻とる七十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ七十八編の二葉野の巻とる七十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ八十編の二葉野の巻とる八十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ八十二編の二葉野の巻とる八十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ八十四編の二葉野の巻とる八十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ八十六編の二葉野の巻とる八十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ八十八編の二葉野の巻とる八十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ九十編の二葉野の巻とる九十一編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ九十二編の二葉野の巻とる九十三編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ九十四編の二葉野の巻とる九十五編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ九十六編の二葉野の巻とる九十七編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ九十八編の二葉野の巻とる九十九編の上巻の
下巻のあはれ巻をわづらひ百編の二葉野の巻とる

仙鶴堂敬白

美艷仙女香
黒油美玄香
製所 坂本氏
取次



書物錦繪
團扇地紙

問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門



小段紙を襖は仕立仙基平と羽織は古戦の記録で説法
わさとし祖師一代記で軍書簿の入をさる。三階かまかか生中二階
かき勘と物類人壽と好めを造化も又それひくれく已がる我
あれて暖や黄鶴類河骨の園は生は刺の水は元さうと不思後と
いのへ昔ゆく今牡丹は珍貴の時雨は降る春と秋との
取るを。系髪女の厚衣者。文金唐田の陰子の振袖最長とく
繪草紙は源氏と綴る淡瑠璃本と和文は直く表裏あると彼紙の
袴の類中襖の筋も信通り。去年今年と古く程なくくふ自も
倦れ。ちと強と書とる。又平酒の羽織中和りふも。畢竟が蛙より
力なき。自と歌詠のまの似や。このる見あれ。春の経候あるふり。て
音も止がり。時雨は頃機する形めて。いある也

天保九年戊戌孟春

柳亭種彦



卷之六

左方 ひだまりをもちうまぜられしところ
 うまおかりなまきののちるゆゑ

あまのこ
このれり
さそおも
をきこと
ふ上上の
要ゆも
甘よ
ひき
く
ちの
ほ
るふ
うわ
めを
女の
まぐろ

[illegible]

[illegible]

今もあふれて
 一かあさそ
 うあはれども
 むうのまこと
 ときふちあむ



さねぶらゝの
ちねねね
まふり
あはうを
そねつて
さぶらゝ
つ夜ふり
さねぶら



原氏七六編

七

[illegible]

[A small fragment of handwritten text from another page, showing parts of words like "muller", "mit", and "der".]

〇 又、東の
 まゝに
 りとまう
 ぐあー
 その中へ
 あつた
 めくら
 らふ
 ちんぽ
 うる

しむる死の
うきうき
あまごころ
こころの
はなを
さぐり
んあふ



六

今まてゝみは
 とあつたきつのでめく
 ねんじり
 ままの
 あんがかりひ
 のまゐりと
 ありえ
 そとさうへき
 そをえよう
 「まこの山」
 大船川の
 やとう前
 どのうぢのよ
 あいふさむぢのふが
 やしきありそののちあふ
 はむ人なるくてぞ
 ひろまれまんとぞ
 それをさうらうつろ
 たせ人よあふます
 まさけりぞうこふ
 はをせても成さぬ
 おんさすひのもちをれバ
 ひそめさうなごまあせ
 こころのさうらうも
 まるひかろうのえんべ
 りんとさめて宗八茶
 ようこそおどくこそ
 知つたれうさう
 いふてめを

[illegible]

いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと



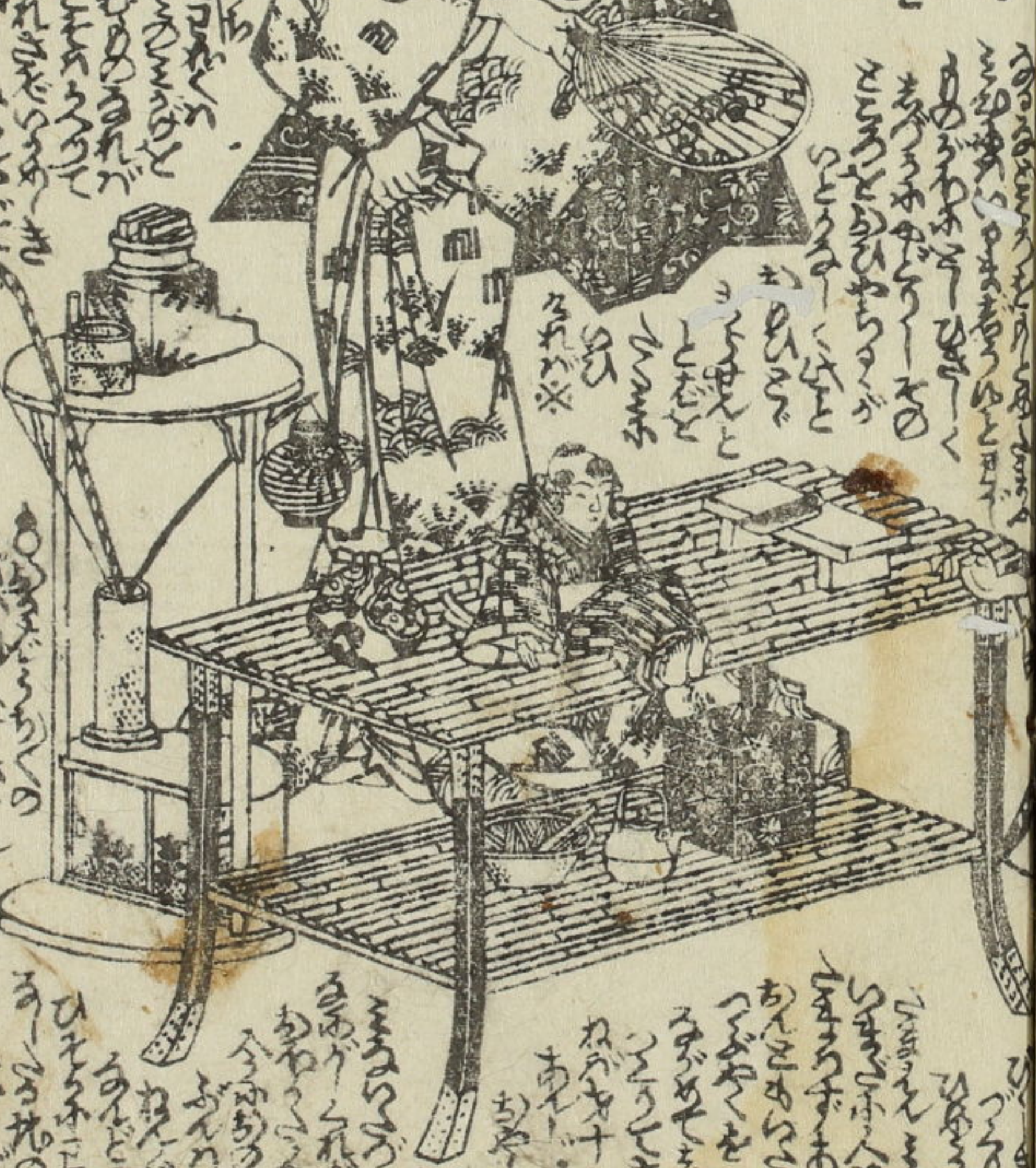
いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと

いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと



いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと

いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと



いそぐとていそぐ
うきとてうきと
まじりていそぐと
うきとていそぐと

九七編上



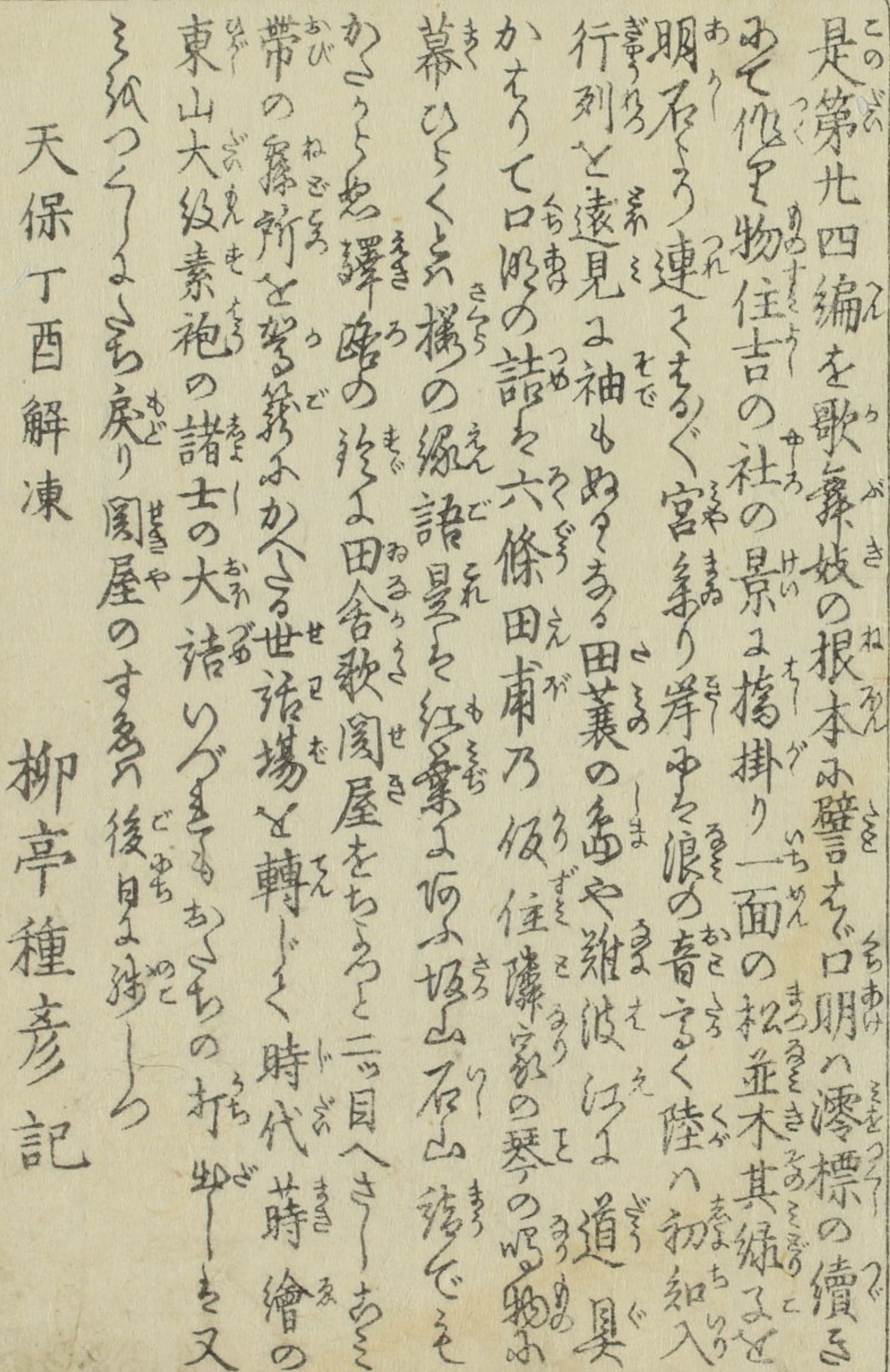
種彦作

種彦作



國貞画種彦作

田舎人種は古
田舎人種は古



天保丁酉解凍

柳亭種彥記

阿古木の女
磯菜

光氏

日くちふ
 ちふ
 ちふ
 ちふ

高知

老之如

喜代之助の
妻
空衣

龜坂の関や
 いろなりせえられバ
 志げきさの
 ちうせうくらん



三

今もちて
て定め
甘ず
ひまめ
ふめ
うち
よめ
こび
国事
ゆけり
そる×

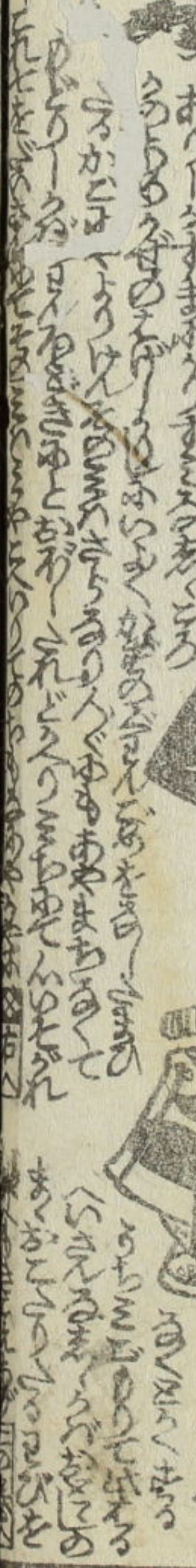
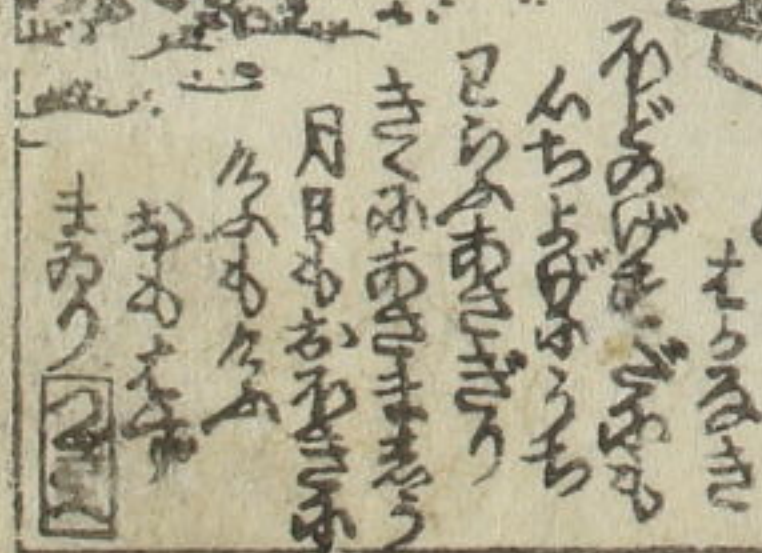


又、
 老の
 一は
 工所
 のい
 まう
 るが
 よの
 やるめ
 おきり
 四
 四
 油を





中々とりまぎれをぬれ
中々いふまをえゆらぎり
丸をさうじうてまづ
すまうふまをさうまう
むうふまをさう光武のまを
ふまをさうむれぬとあ

[illegible]

つぎありのすゝめ
あまとのささるかりぐ
つとくをふくむるべ

ろうとわさずうち
 ぞくまをあん
 かどのりちき
 これ七ぎのめり
 とそつてふ
 ひあふふたき
 あふ

[illegible]

あかこをきくむささこのめ
たてまのれが光氏もれ
日ダゆそやうさう
やうとあや
よしのをり
おひるがう
まゐ



めぢあひ
まゝかりを
とせつて

とめてしまふれば
おれ七八のさう
まゐらぬぞ

あまをせ
きりぬ
かたは
うしろ

This detail shows a section of a larger woodblock print. It depicts a river scene with a boat containing several figures. In the background, a building with a tiled roof is visible. The style is characteristic of Edo-period Japanese art, with bold black lines and a limited color palette.

五ノナリ
 五ノナリ
 五ノナリ

ついでにうたをうたへりて
ついでにうたをうたへりて
ついでにうたをうたへりて

ちやうど
 おひを
 つく
 なる

[illegible]

ちやれぬものゝあまの
 なまはす
 へあれまゝなりれまゝなり
 まゝなりまゝなり
 あまの
 びま
 へま

A black and white illustration of a person in a dynamic, expressive pose, possibly dancing or performing. The figure is rendered with bold, sketchy lines and is surrounded by a complex, abstract background of swirling patterns and textures. The overall style is reminiscent of mid-20th-century modernist art.

A black and white woodblock print illustration. In the foreground, a man in a kimono stands on a wooden veranda, looking out over a landscape. The veranda has a railing. In the background, there is a tiled roof and some trees. The style is characteristic of Edo-period Japanese book illustrations.

東坡先生集



 〆をきむれが来みふ
 そのわうたどうのさうじよ
 けてひてまゝとくるさ

[illegible]

ちやうをうてゐればあきの支
 けさうにちやうのふりまゐりて
 ちやうをうてゐればあきの支
 けさうにちやうのふりまゐりて

つるまき
ひょうたん
あま
おと
つる
と

今乃米氏
 元をなす
 そあの日を元
 かまふありゆひか中へ
 まるきおて
 いりまの
 ふも

 るまめきあら
 いろつらそを
 うそまあらう
 あさぎ
 かりを
 おひをま
 こゝろに

つきの日
るれば
うらや
まう
あふ
うら

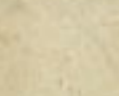
ものの

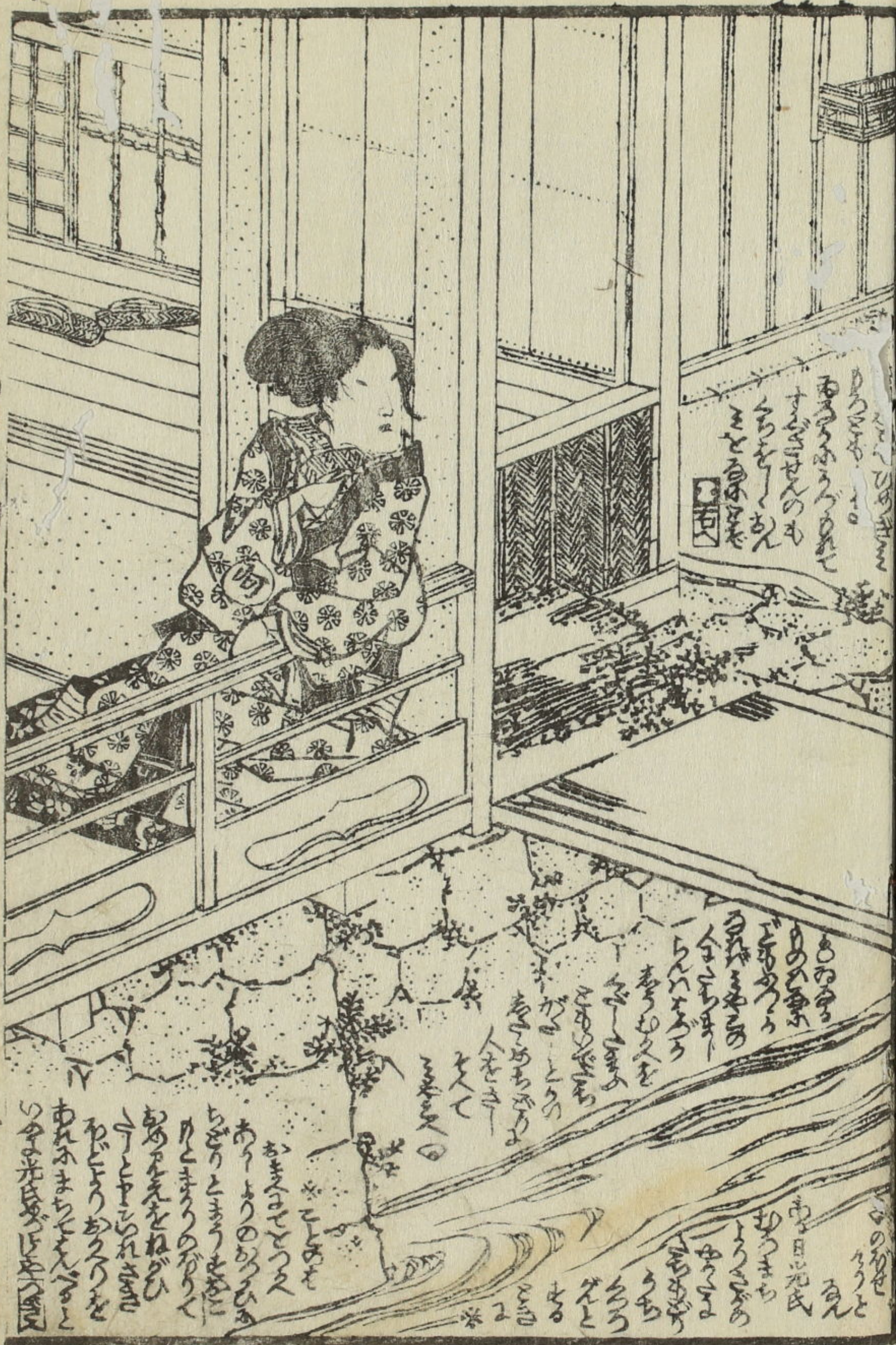
うづはわさうのろわれぬも
ちわれきこわいじちやうの
んまものまじらひん

右

て
を
か
り
光氏を
て又
ま
を
その

あふ
をたて
の
あうト
かんも
くうふ

[illegible]



※こゝに
 おまへてとつて
 あうよりのちひあ
 ちどりともうまに
 けこまうのかりて
 おあをえをねがひ
 うとやこれさき
 ねじようおうりを
 あれあまちとせんべうと
 のきは光はまじりてつる

ともやう
 りのふく
 ぶつあう
 るれんま
 今もわい
 一らんを
 まうむを
 こものて
 がとら
 あうめ
 人をき
 とて
 まえ

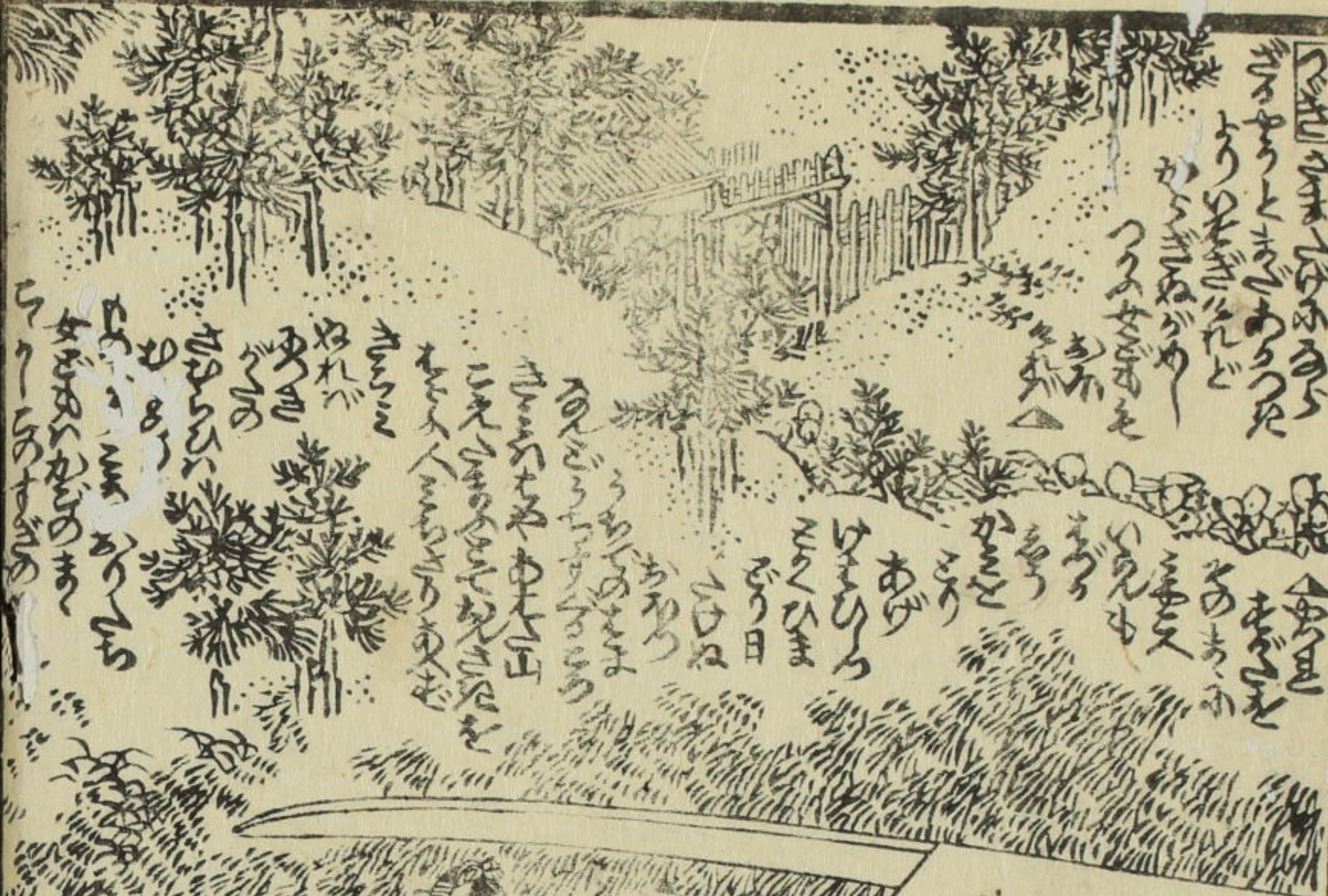
中目元氏
切つまち
うらなひ
一やうは
ふたやう



今や京ぬ
 光氏と
 のちつ
 今や京ぬ
 光氏と
 のちつ
 今や京ぬ
 光氏と
 のちつ

ひの中くまうなり
ふづりもさき
るりと父のまげを
かたけにあら
よりとまうかん
つゝめいねて入
わざうーひと
ちどりが今ひと
び京へのかりて
うちえたるそれわ
くれわのあふんそあひ
おれやうとせむらふお
なりのこのあは
るればいつひあは
うれこそよまれと

ついでにまゐりて
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて

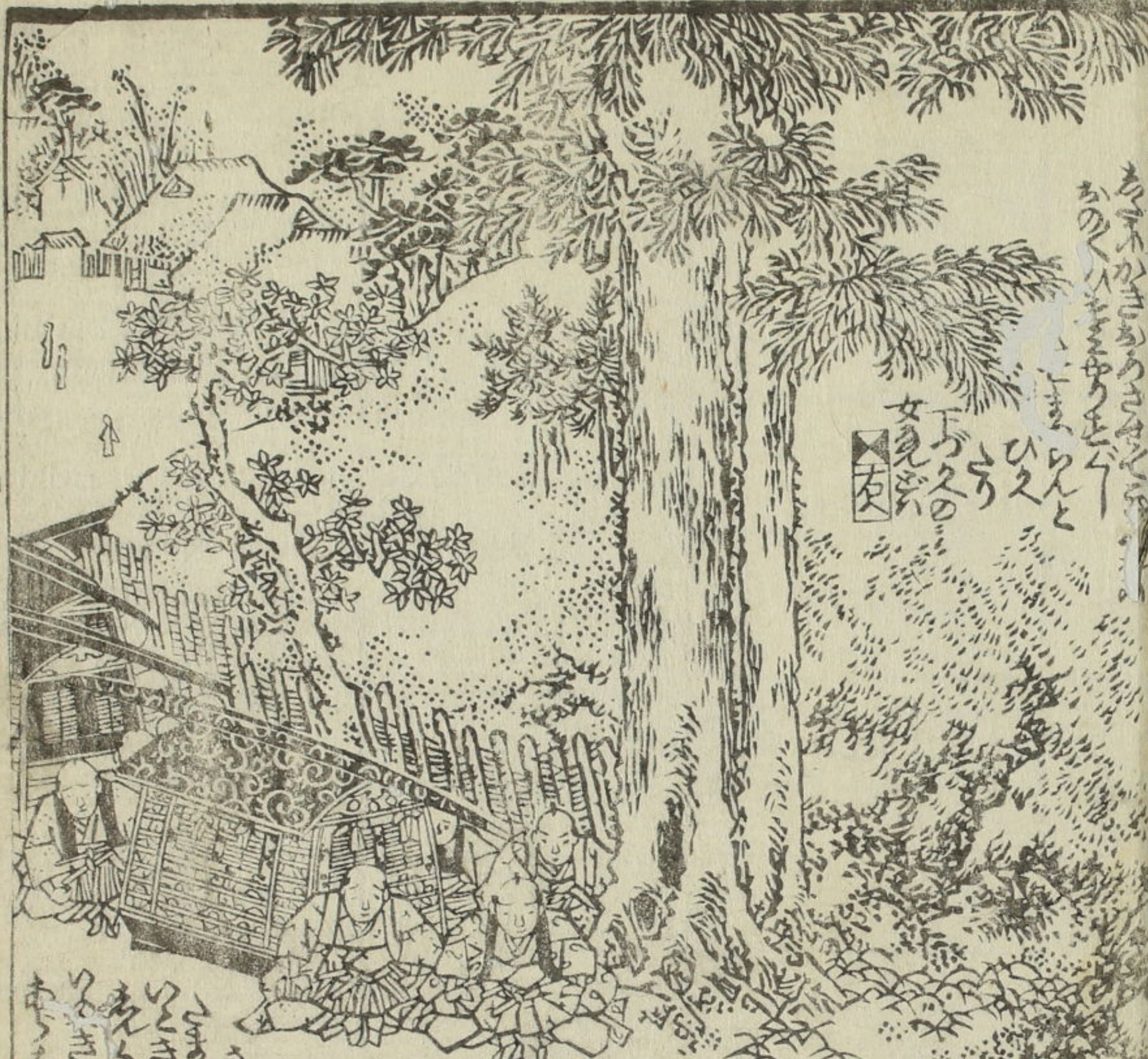


あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて
あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて



あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて
あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて

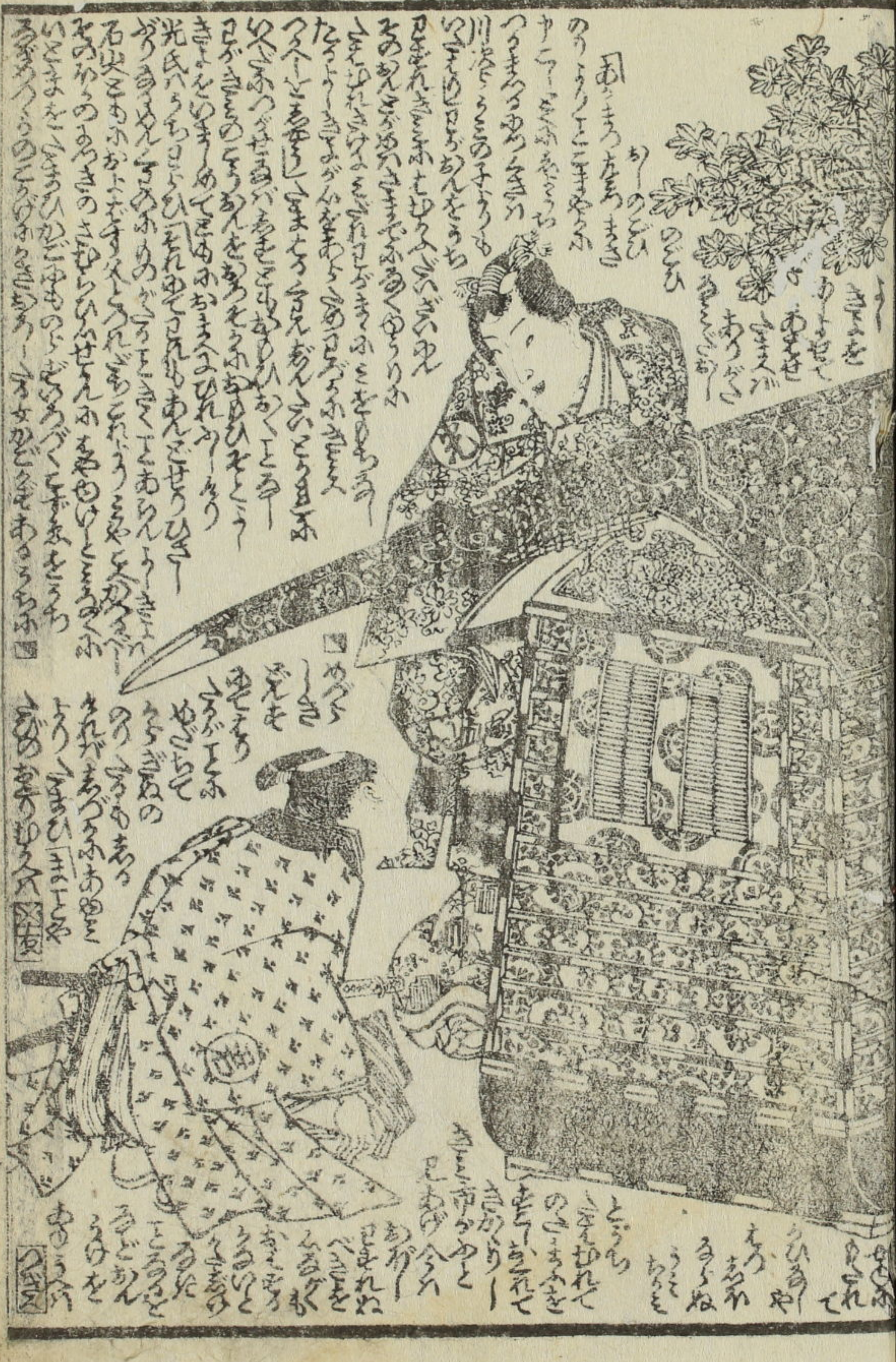
あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて



あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて

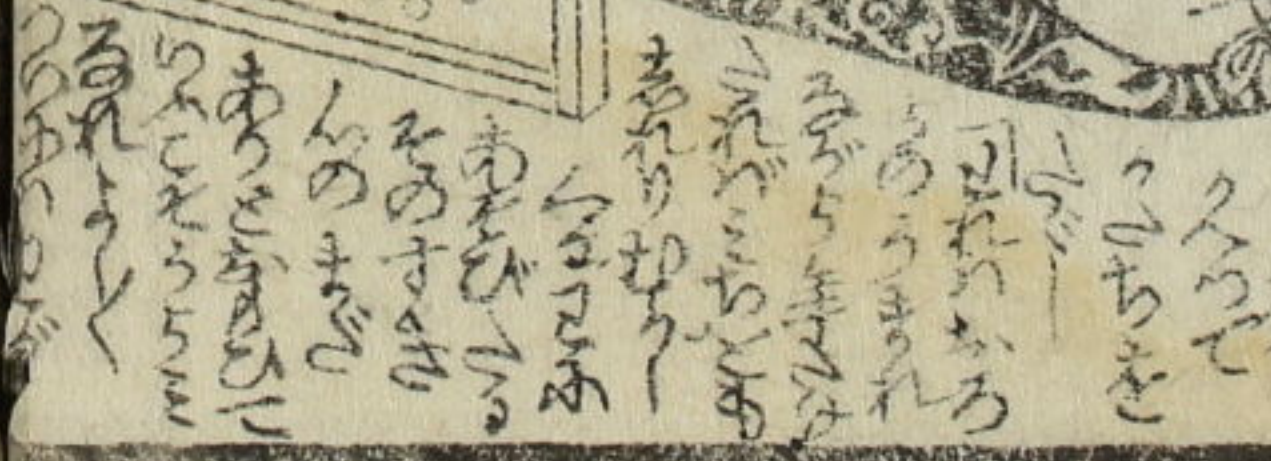


あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて
あつたまゝ
うらやましくあつた
かゝるまじき
つゝとて



[illegible][illegible]

女といふ月の所を亦あざせざるや
くともそなたも思はるべき事なり
かひのわづらひのわづらひを
そめてまうきとのあつ
くもあらむとてさう
とされてはるるごころ



ちのち人の心と
 るはちのちの
 るはちのちの
 こととて
 うらなふけん
 あらうこと
 あらうこと
 あらうこと



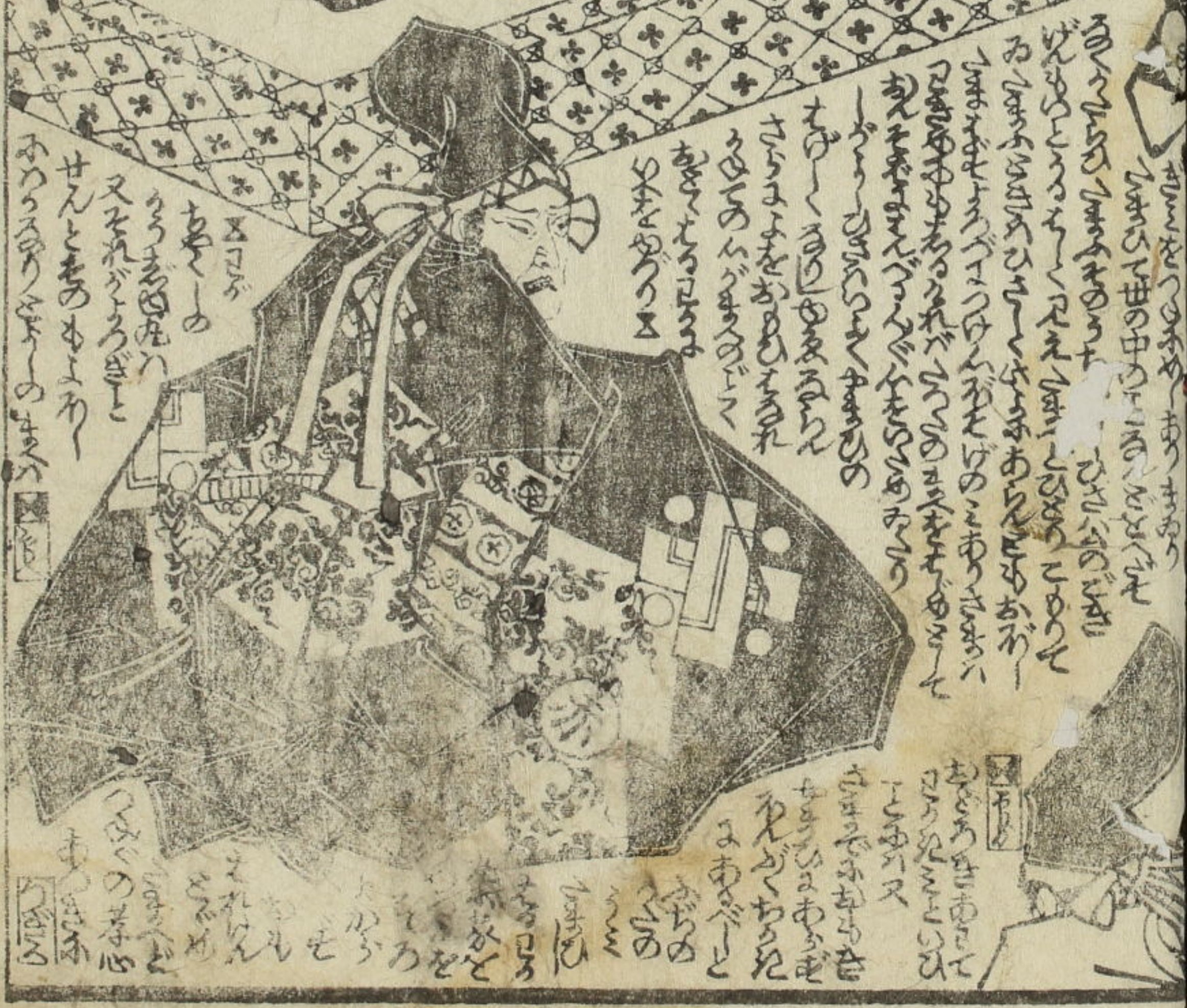
あつぐらうわ
なまゝいふるがく
月をよと
かきぞうりび
るれちぢん
さうより
いまきと
ひにげうで
あみみ
でらん
みされず
かんが
かいらう
うとおそ
こまづ
あめかうふ
ごころち
うさも
あて
り
ごころ
う

こまへ入あがり
ねえといふのふを
はなはなめめく
あるせられそのうろくし
なまゝいふるがく
なまりやまじきづの
なまゝいふるがく

あめめをいふる

[illegible]

187



大書院書文

此書は、大書院の蔵書に属するもので、その内容は、書文の範疇に属するものである。...

消息往来詳註

高井蘭山撰 全三冊
消息往来、世に傳へるもの多し、然れども、其の詳を知らざる者多し。...

消息往来、世に傳へるもの多し、然れども、其の詳を知らざる者多し。...

合壽福三世相大鑑全冊

江戸名所物見、江清長筆、全三冊
合壽福三世相大鑑、江戸名所の一つである。...

合壽福三世相大鑑、江戸名所の一つである。...

奉獨林言古

中本一冊 山櫻連作
奉獨林言古、中本の一冊である。...

奉獨林言古、中本の一冊である。...

教真卓消息往来

右五通、其換上品にて、其の趣意に仕立、...

御免江戸曆開板所

毎年十月、江戸の御免江戸曆開板所、...

載陽帖

南山禅師書、東海道、道法草筆、用道中記、...

新日本名所之繪

唐紙摺一枚、蕙齋銀形、紹真筆、...

新女古状揃

半紙本、両品出来、高井蘭山編撰、...

還魂紙料

古画入二冊、...

田喜書翰

...

隨筆

...

玄同放言

初編二編、...

初編二編

...

板開

後集
蘭集全冊

刻追

戲童遊言

通

廣益懷中早

善

新形彩色目

南北

芝居似顔早粧

可

文字自笑評

卷之四

藝品定名

卷八

即考百籤全

一冊

車
 策蘭集全冊
 追
 多指為伊勢道に於て居る者、并國書館に在る中書の方
 文、此は當時の著者、その附録、久松義賢氏の所、
 亥、板金二百、澤田氏の著、その流、一冊、ある、一、む

戲童遊言画手本一名鳥羽繪早さき出で來き

廣益（くわくえき）懷中（わいちゆう）早割（さわり）大全（たいぜん）
二冊 小本
あやうき建儀書とちひ便利と知ぬにてあめさるる
 平日らにの効多ふにちやくそのとちひなるやせく
 上建すもちあるをちやくとちひなる効多ふなり

新形彩色目
植花手引
前編出来
後編刻
先主録
奇あめり

芝居に似に顔が早も昔やむ古こ後編
全冊五渡亭國貞画

文字自笑評
三箇之津やうせん
金
此後若藝澤の要元採りあがり爲然とて國松に
有入匠焼く病多し以午申中今の津粒玄評判に傾ふ

藝品定名不言書冊
相推ひ文彦佐助等とくお改め直方にも
改めは重なりとうの如うとあるに事な
るを以て其の正誤かたを考へて

即考百籤全一冊
はるかに
我々の世に

収
書
山



種虎作

第三卷

國史

仙鶴堂藏板目錄

字寶節用千金藏

大全書狀案文

源氏百人一首宝文庫

女用文章色紙染

御家 正流 子供案文

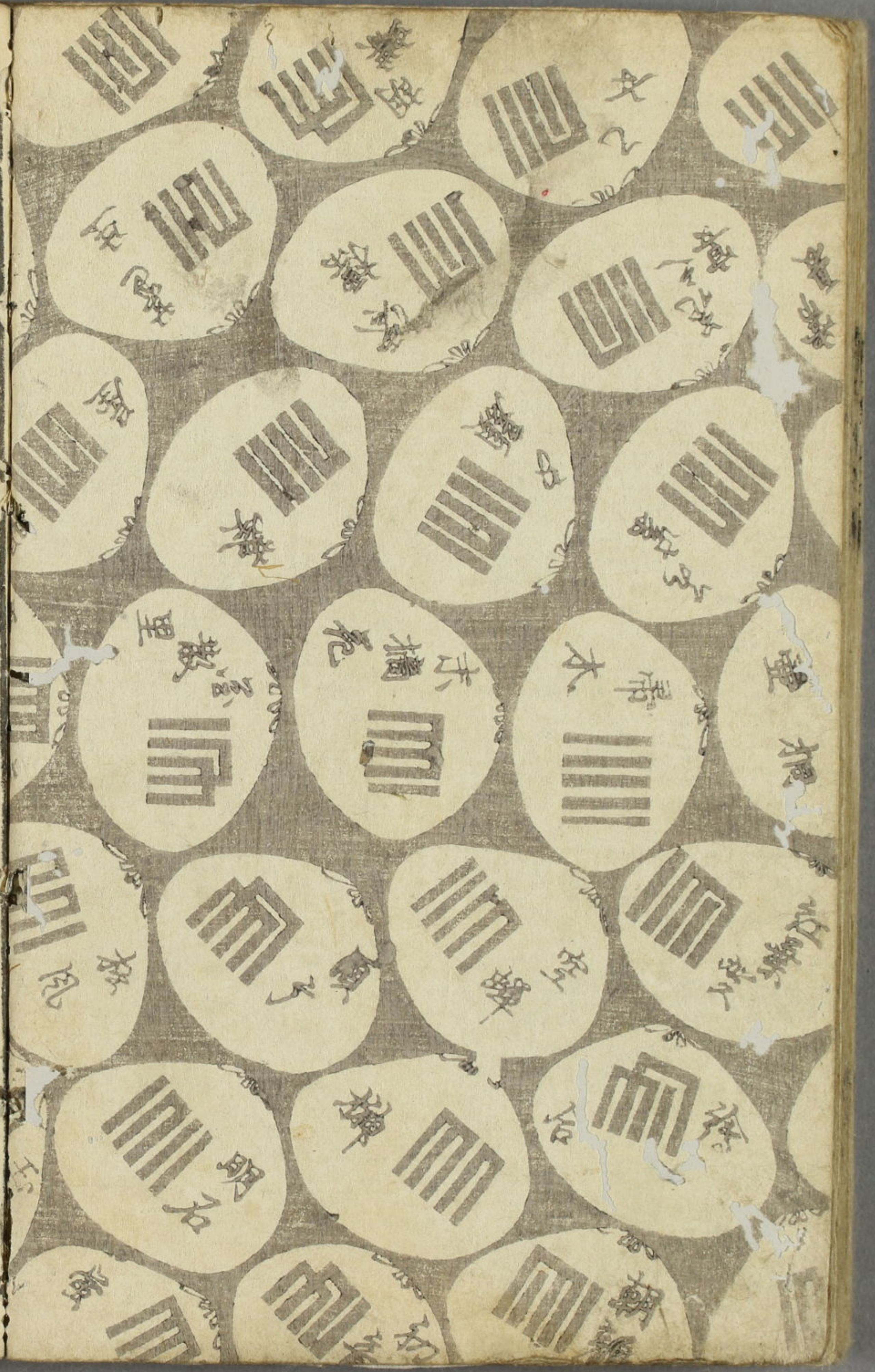
柳亭隨筆 還魂紙料

田舎源氏文のたより 廿八編目録書よりたよりを編むに
やうの休略をたの風流のたよりを
ありのたよりをもたさすのたより
あきやうのたよりをたより

小繪をたより 種彦のたより
昔 火焚をたより 全二冊
同 火焚をたより 全二冊
同 浦島をたより 全三冊
茶番のたよりは 全三冊
以上先年奏出のたより
咄 楠判官 全三冊
同 おどろき判官 全三冊

地本類東錦繪問九

鶴屋喜右衛門



天保九年戊戌初春新彫

修紫田舎源氏

当集北五編より三十編まで用板おろして子序を添へて程々集む

佐野渡忍敵懸橋

五雲亭貞秀画 全六冊

復讐書屋茶話支庫

五雲亭貞秀画 全四冊

金花猫変化生鋪

五雲亭貞秀画 全六冊

柳亭種彦作

歌川國貞画

櫻風呂花半開

五雲亭貞秀画 全四冊

松のゆめの藤浪

五雲亭貞秀画 全八冊

小舎ざり

歌川貞秀画 全一冊

昔大棟大ア

歌川貞秀画 全一冊

山崎の茶め
義範仙女香
馬油美奈香
三自西町
原本氏製



書物錦繪
團扇地紙問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門



天保九年戊戌初春新彫

修紫田舎源氏

志保九編より二十編まで同板おかしき所ありて後改訂し後藤藤太作

柳亭種彦作
歌川國貞画

佐野渡恋敵懸橋

五雲亭貞秀画
緑草仙橋作

櫻風呂花半開

五雲亭貞秀作
全四冊

松風ゆめの藤浪

五雲亭貞秀作
全八冊

復讐園茶話文庫

五雲亭貞秀画
丹頂葺鶴丸作

金毛猫婆化生鋪

五雲亭貞秀画
大海舎金龍作

昔大槌むくア二冊

昔浦島太郎二冊

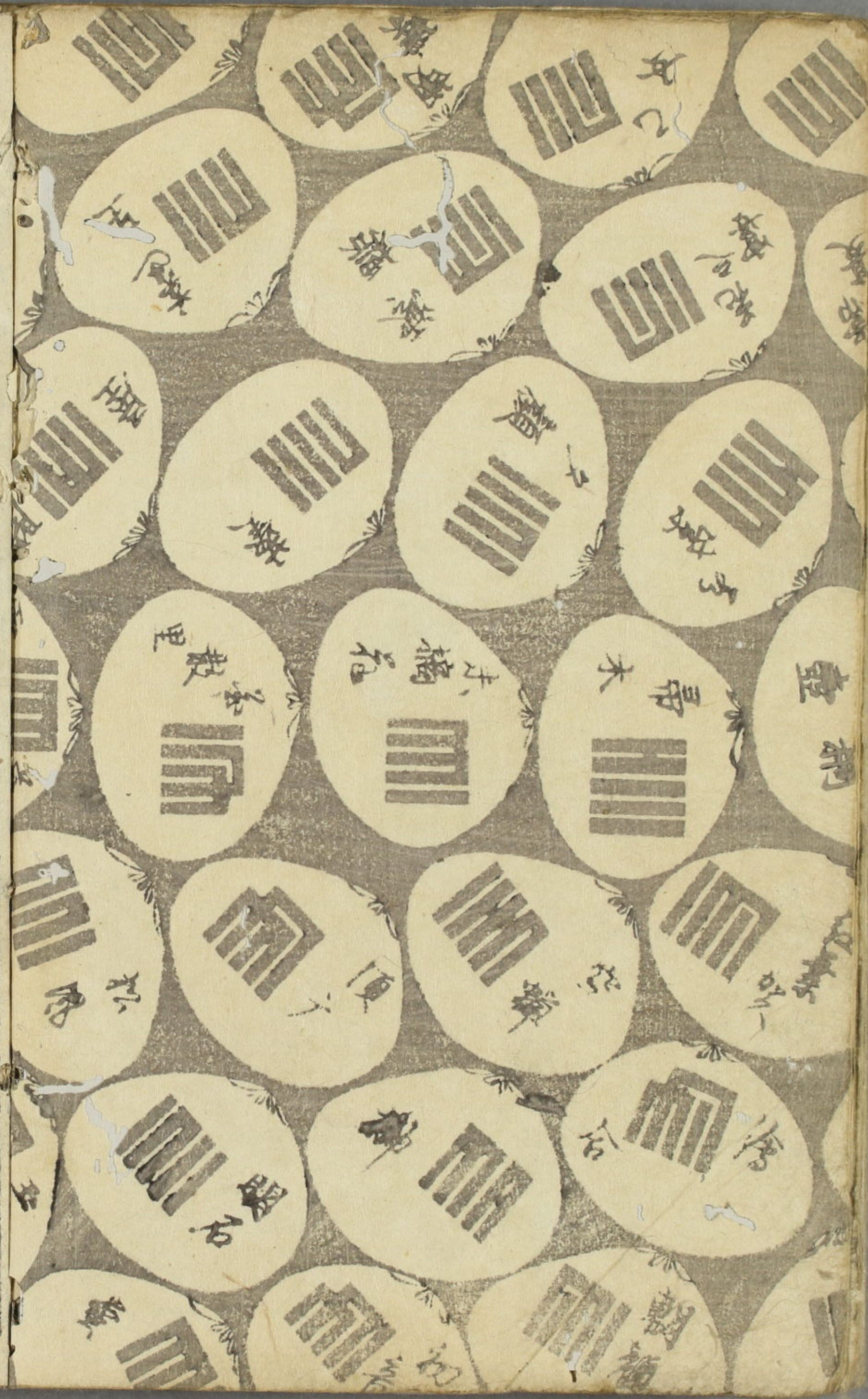
美濃仙女香
黒油養女香

四十八銅
三日月
東本氏製



書物錦繪
問屋

江戸通油町
鶴屋喜右衛門



天保九年戊戌初春新彫

修紫田舎源氏

当集北五編より三十編まで用板おかしき所は災咎なく後集希少

佐野濃然敵縣橋

五雲亭貞秀画

櫻風呂花半開

五雲亭貞秀画

松風ゆきあふ藤浪

五雲亭貞秀画

復讐國茶話文庫

五雲亭貞秀画

金花猫婆化生鋪

五雲亭貞秀画

義艶仙女香
黒油表紙
三十四頁
漢本氏製



書物錦繪
問屋

江戸通油町
鶴屋右衛門

黒油美玄香

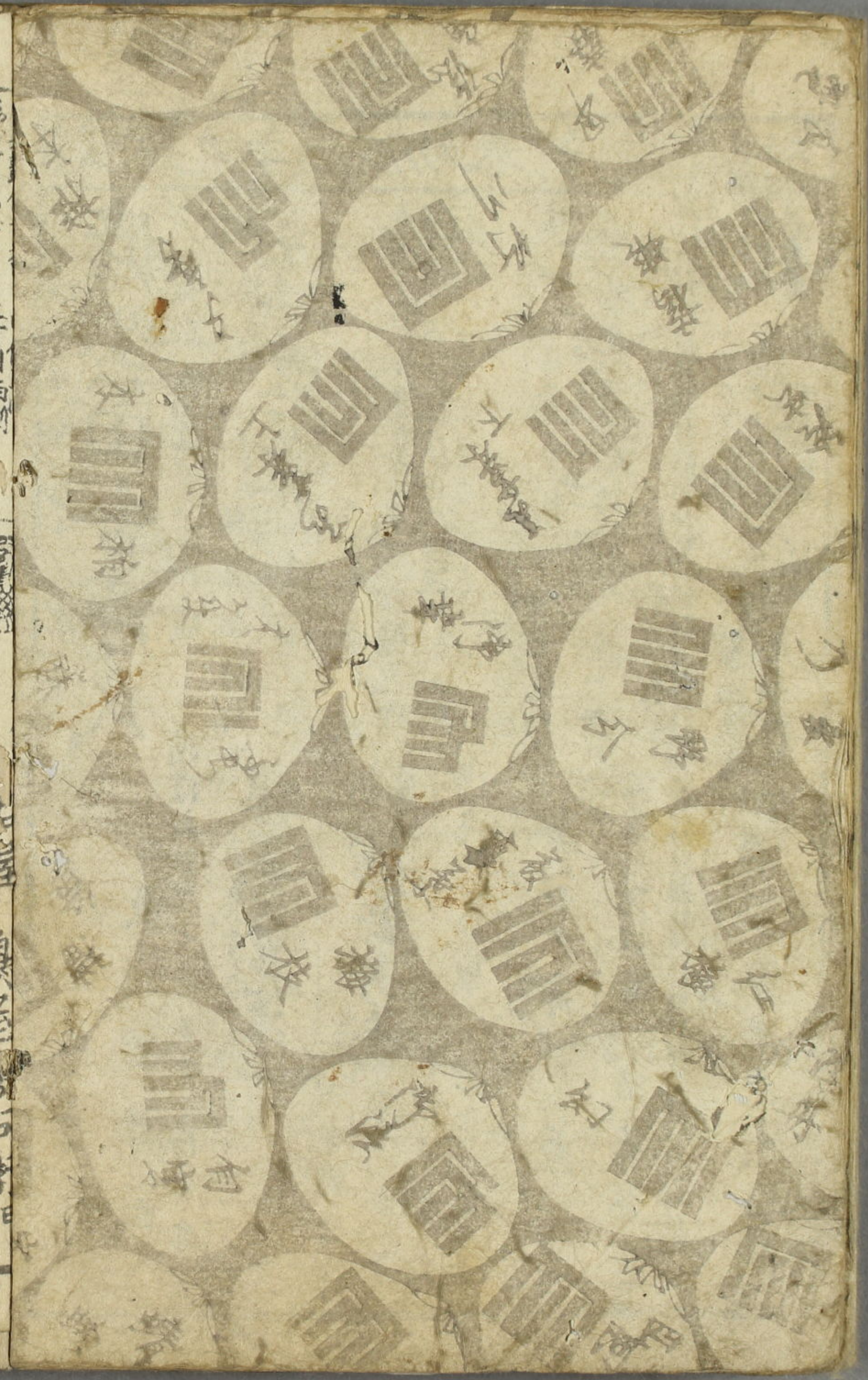
三丁目西側
坂本氏
取次



團扇地紙

屋

鶴屋喜右衛門





果中

卷一

大

一〇

高村